

へきけんニュース

ホームページ https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/

メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学旭川校

令和4年度旭川校へき地校体験実習報告会について

北海道教育大学旭川校へき地教育アドバイザー 伊端俊紀



▲伊端俊紀アドバイザー

1 はじめに — 58名の実習生が無事終了

令和4年12月17日(土)、北海道教育大学旭川校にて、「令和4年度旭川校へき地校体験実習報告会」を開催しました。

今年度もコロナ禍でのスタートとなり、学生達の感染等による実習受入校への影響がないように、様々な対策を行いました。学生達は普段以上に感染対策に気を配り、我々もできる限りのことを行い、実習直前段階から実習終了まで、58名の実習参加学生から一人の感染者も出さずに、無事に実習を行うことができました。これもひとえに、受入校や各教育委員会のご協力、そして関係各位のご理解とご支援の賜です。心より感謝申し上げます。

2 今年度の実習校と発表の概要 — 28の受入れ校に感謝！

今年度は、上川管内と宗谷管内の28校に実習を受け入れていただき、士別市立温根別小学校、多寄小学校、幌加内町立幌加内小学校及び幌加内中学校の4校が旭川校の新たな受入校になりました。受入校と教育委員会には、例年と同様、手厚いご支援をいただきましたが、今年度は特に、今まで宿泊に使わせていただいた施設の閉鎖や改築などにより使用できなくなる事態になっても、教育委員会から宿泊場所を斡旋いただいたり、役場庁舎での宿泊を認めていただいたりしました。また、宿泊施設周辺からの通学児童生徒がいなくなり、スクールバスの運行がなくなったにもかかわらず、学生の通勤のためだけにスクールバスで送迎していただくなど、実習生の生活への気配りをいただきました。本当にありがたいことです。



▲渥美伸彦運営委員長

報告会では、へき地校体験実習旭川校運営委員長の渥美伸彦先生にご挨拶をいただき、選ばれた5校の発表を行いました。選定されたどの学生も意欲的に発表準備を行い、自分たちが実

習で理解したこと、得たもの、自分の課題、実習の楽しさ、気持ちや意欲の変化などを参加者に確実に伝えようと努力することができていました。また、オンラインで参加した「へき地教育論」受講生にも実習の良さや楽しさをアピールし、次年度の参加を促すことができました。

3 各校の発表より — へき地の特性・授業・教職への意欲

各校の発表から、へき地の三特性、授業、教職への意欲に絞って内容をまとめました。

へき地性 — 学校と地域の良好な関係性

学校と地域の関わりや連携について述べられました。学校が放課後の児童生徒に学び支援を行っていることや、地域のお祭りへ学校として参加していること、そして地域住民が学校行事に積極的に協力していることに、驚きの声がありました。また、地域にあるものを活かして子ども達の心の成長を図る学校の意識や取組に感心する声もありました。このように、1週間という短い時間の中でも、学校と地域の関係性をしっかり感じ取ってきたことが伺えました。

布礼別小学校

○地域との関り



今年度で閉校予定 富良野市の小学校 最後の学芸会

10/15(日) 16時41分

児童数が減り今年度で閉校予定の富良野市の小学校で、地域の人士を招いて最後の学芸会が開かれました。

富良野市の布礼別小学校は最後の学芸会が閉校時代に設けられた歴史ある学校ですが、児童数が減ったことから今年度で閉校は学校の統合されることになっています。この学校で15日、最後の学芸会が開かれ、児童9人のほか、保護者や地域のひととお客をよりの人が集まりました。学芸会では、子どもたちが家族の演奏や歌を披露したほか、地元、布礼別を題材にした創作劇を保護者などと一緒に上演して上賓しました。劇中で主人公の1人役としてこけしたるの演劇から演説し、布礼別小学校は永遠に変わらない」と語り、集まった人たちは感動の涙を流して見入っていました。

学芸会終了後、6年生の児童代表は「最後の演劇の中で感動の涙を流しました。私の小学校生活は母校の思い出をたくさん思い出しています」と話していました。また、この小学校を卒業したという60代の男性は「思い出をたくさん思い出して閉校は寂しいです。子どもたちは別の学校に行っても布礼別の子としての誇りが忘れずに生きてほしい」と話していました。

地元の敬老会へ学芸会の案内状を作成 (全校工口)

NHK 北海道 NEWS WEB
https://www3.nhk.or.jp/Sapporo-news/20221015/7000051554.html

糸魚小学校

地域のお祭りへの参加



布礼別小学校

観光トイレ清掃「楽しかった」 来春統合の富良野・布礼別小で振り返り集会

10/06(金) 09:00

【富良野】本年度で閉校し、来春4月から新しく統合される布礼別小(幼稚園・小・児童9人)で、観光客が多く利用する学校近くの観光トイレ清掃について、最後の振り返り集会が開かれました。

同校は市が観光トイレを設置した1988年から清掃活動を行い、2015年にはトイレの扉を認めて暮らす社会を目指す活動を内閣府が表彰する「日本トイレ賞」に選ばれた。本日は5〜9月に計5回の活動を行った。

北海道新聞
観光トイレ清掃「楽しかった」 来春統合の富良野・布礼別小で振り返り集会
https://www.hokkaido-np.co.jp/article/741250

34年続く観光トイレ清掃 (ボランティア活動)

小規模性 — 少人数の目の行き届いた教育

実習に参加した学生達が驚いたのは、児童生徒と教職員の親密さ・距離の近さでした。参加学生のほとんどは大規模校出身者であるため、少人数の児童生徒と先生方の関係が、自分たちの過ごしてきた学校と大きく違うことを理解したようです。児童生徒と教職員がお互いに積極的に関わって、それぞれいろいろな面や思いを理解していることに感心していました。

そして、その関係や相互理解を活かして進められる少人数による目の行き届いた授業や活動から、小規模少人数が利点であると理解してきたようです。

上士別小学校

5 小規模学習



道具の共有



ひとりひとりに寄り添う


学級内の整備



幌加内中学校

6.小規模学級の授業

- ・生徒一人一人の実態を把握できる
- ・個に応じた指導
- ・作業スペースが広い
- ・全員参加の授業



一方で、生徒から考え引き出すための工夫が必要...

複式形態 — 異学年指導のプラスイメージへの転換

「へき地教育論」の講義での説明や動画視聴、へき地校体験実習事前指導での学びで、複式授業について、その大変さや難しさを理解していた学生ですが、協力校では、複式の授業が、いつも普通に行われていて、先生方のすごさや児童生徒が生き生きと授業に参加している姿に感心したようです。

また、多くの学生が、児童生徒の学年の枠を越えた仲の良さにも驚いており、同じ学級に異学年が過ごすことや少人数の学校に対するイメージを大きくプラスに変換できたようです。



糸魚小学校

5. 複式授業について

- ① 細かい指導が可能
- ② 主体的な姿勢が身に付く
- ③ 授業内での異学年交流



西中小学校

3特性

- へき地性
- 小規模性
- 子どもに合わせた指導
教員や保護者、地域との強いつながり
- 複式形態
- 自主的な学びができる



授業 — 実りある教壇実習の成果と学校への感謝

多くの学校で教壇実習を実施していただきました。授業観察でもかなり貴重な経験となるのに、多いところでは、4回も教壇実習を経験した学生がいました。当初は、ほとんどが2年生なので、教壇実習は学生に負担が大きすぎるのではという心配がありました。大変であったけれど、実のあるものになって良かったという感想がほとんどでした。協力校には大きな負担となる教壇実習にもかかわらず、学生のために実施していただきました。ありがたいことです。

上士別小学校

6 教壇実習



先生方と、指導案作成、模擬授業などの打ち合わせを繰り返す……



いよいよ子どもたちの前へ!!

子どもたちの「楽しかった!」が何よりもうれしい!

教壇実習

西中小学校



みんな一生懸命授業に参加してくれました!

授業準備は大変だけど楽しい! 子どもたちとの信頼関係が大切!

6. 教壇実習について

4年習字 「力」 (西村)

授業中の児童の発言の大切さを実感

習字の楽しさを感じてもらえたことが嬉しかった

上手に書いて嬉しそうな児童の笑顔は宝物!

自分も楽しく授業を行うことができた



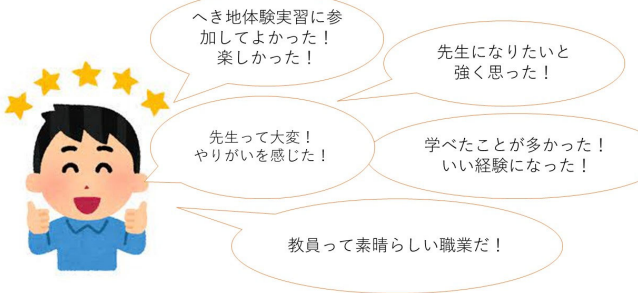
糸魚小学校

教職への意欲 — へき地校の子どもと接することで高まる教職意欲

子ども達から「先生」と呼ばれる不安を伴いながらの喜び、積極的に関わってきてくれる児童生徒との楽しい時間、拙い授業やアドバイスにでも、児童生徒が意欲的に応えようとしてくれるうれしい反応などから、教職への意欲がさらに高まったり、迷いがなくなり教職への道を決めたりする学生が多くいました。また、教員の仕事の大変さを目の当たりにして驚きながらも、目の前の子ども達の成長を身近に感じ、それに関われることが、大変さ以上に素晴らしいことだと感じている学生も多くいました。

7. へき地体験実習を終えて

布礼別小学校



7. 実習で得たもの

糸魚小学校

・児童の成長の瞬間を間近で見られる

教師という仕事のやりがいとは何なのか

・成果が分かりやすい

・児童理解、適切なかかわり方

9 実習を終えて

上士別小学校

- 1 理想とする教師像を見つけられた
- 2 教師の仕事について知ることが出来た
- 3 力不足な部分が明確になった

教師になりたいという気持ちが強くなった

貴重な体験が出来るのでぜひ行って下さい！

西中小学校

学んだこと

- 子どもたちとの関わり方
- 教師という仕事の大変さ、やりがい
- 実習後の達成感



4 おわりに — 皆様方のご協力のおかげです。

最後に、講評をへき地・小規模校教育研究センターの川前あゆみ副センター長からいただきました。発表校それぞれ、へき地教育の三特性について述べていましたが、この三特性についてのこれまでの実践の積み上げやこれからの多様な学びへ向けての実践の積み上げの大切さについて、ご示唆をいただきました。また、冒頭の挨拶で渥美先生からもいただいた「省察」という言葉とともに、この1週間という短い期間であるものの、その中で得たものを活かして、これからの本実習などの学生生活を充実させてほしいというお話をいただきました。

この報告会は、現在、「へき地教育論」を受講している学生が講義の一環として、オンラインで試聴しました。受講生の感想からは、この実習に、先輩方が意外に軽い気持ちで応募し、楽しく、他では得がたい貴重な体験をしてきたことに、安心したり感心したりしながら、来年度のへき地校体験実習参加への意欲を高められたことがうかがえました。

今年度もコロナ禍での開催になりましたが、来年度も、これまで同様、皆様方のご協力をいただき、へき地校体験実習を実りあるものにしていきたいと考えております。

これからもよろしく願いいたします。

